

今年度最後の戦い全日本大学サッカー選手権決勝を勝利し、見事3年連続2冠を獲得した駒大サッカー部。大臣杯3連覇という重圧、天皇杯まさかの1回戦敗退、3連覇のかかったリーグ戦を落し建て直しが心配された中でのインカレなど2冠獲得への道は決して容易なものではなかった。

1点差の競り合いに勝てなかった前期リーグ

昨年度の駒大の核である中田(現・仙台)、橋本(現・大宮)という中盤の両翼をどう埋められるかが鍵と思われた前年度関東リーグ戦覇者駒大。

近年ものにするのができない開幕戦は、2部から昇格の流経大との対戦となったが、素早い攻撃でDF陣を翻弄する流経大相手に苦戦。一度は、大澤のゴールで同点に追いつくも離され、まさかの黒星スタート。3連覇へ早くも暗雲が立ち込める。

開幕戦後、キャプテン鈴木祐が怪我で戦線離脱するが大澤、桑原、廣井の3人のローテーションでその穴を埋め、小林竜や小野里などの1年生の台頭も目立ち2節以降無傷の4連勝で首位に立ち、調子も上向きで前期リーグ上位陣との山場を迎えた。

第6節、国士大に勝って最終戦を迎えたい駒大だったが、絶対調の原を欠く攻撃陣が冴えず、終了10分前に失点を許し、その後の反撃空しく首位を筑波大に明け渡してしまう。

前期首位ターンには、筑波大に勝利が条件の駒大。前半小林亮のゴールで先制するが2分後には追いつかれる苦しい展開。後半開始後、立て続けに2失点を喫しあとがない駒大は、東平を投入するが反撃及ばず敗戦。開幕戦、上位校との対戦など、大事な試合の1点差の接戦を勝つことができなかつた前期リーグだった。

前期リーグ

第5節

○2-0 東学大

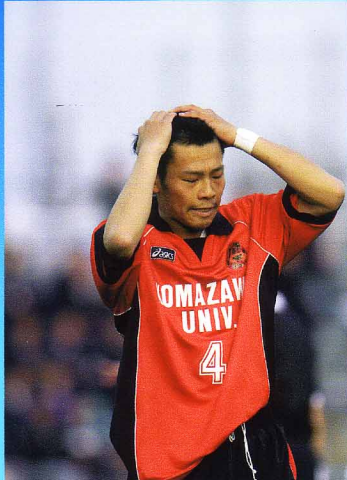


第7節

●1-3 筑波大



今年度も勝利でスタートができなかつたリーグ開幕戦だったが、その後しっかりと立て直し4連勝。エース原は前期7得点の大活躍。しかし下位チームとの対戦で取りこぼしは無かつたものの、上位チームとの対戦でどうしても勝てなかつたことが大きく響いた前期リーグとなった。



第1節

●3-4 流経大

総理大臣杯

決勝戦 ○5-2 桃学大



至福の夏



関 カレでは準決勝、関東2部の明大に完敗という屈辱を味わった。しかしこの敗戦で選手たちはもう一度駒大サッカーを見直すことができ、大臣杯での成功を収められたのではないだろうか。また大臣杯では菊地、塚本、東平など1年生の台頭も忘れてはならない。1回戦では大体大の長身FWを菊地が抑え、2回戦の浜松大では後半途中から投入された東平が流れを変え、準決勝では明大のサイド攻撃を塚本が止めてみせた。今期の終盤戦では疲れや上級生の活躍があり、1年生の出場機会は減ったが、この夏の経験が来期以降生かされるにちがいないだろう。

準決勝 ○2-1 明大